

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部国史学科卒業
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程修了
(1995年3月 博士(文学)学位取得)
1992年4月 東京大学社会科学研究所助手
1994年4月 東京大学教養学部助教授
1996年1-10月 ドイツ、ボーフム大学 (Ruhr-Universität Bochum) 客員教授
1996年4月 東京大学大学院総合文化研究科助教授 (大学院重点化による)
1999年10月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月 同准教授
2012年8月 同教授
2012年8月-2013年3月 米国、イェール大学 (Yale University) 客員研究員

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

明治期の機械工業が元来の研究課題。新技術の導入が社会をどのように変えて行くのかという問題関心を中心に、史料に即した明治・大正期の再検討を心がけている。

c 概要と自己評価

講座ものの執筆や共同研究に参加したため、従来より幅広く対象をとらえることができるようになり、産業遺産の研究でも多くの知見を得られたが、手を広げすぎて多忙なため、検討を深め、また体系的に成果を提示することが課題となっている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、橋本毅彦編、『安全基準はどのようにできてきたか』、東京大学出版会、2017.5、68-85頁執筆
共著、小林和幸編、『明治史講義【テーマ篇】』、筑摩書房、2018.3、143-158頁執筆

(2) 論文

鈴木淳「日本における陸軍航空の形成」横井勝彦編著『航空機産業と航空戦力の世界的展開』日本経済評論社、2016年12月、15-50頁
鈴木淳、「横須賀軍港の人的構成」上山和雄編『軍港都市史研究IV 横須賀編』清文堂、2017年1月、185-221頁

(3) 学会発表

国内、鈴木淳、「勸工寮葵町製糸場の設備と意義」、2017年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会 自由論題報告、大阪商科大学、2017.10.14

(4) 啓蒙

鈴木淳、「横須賀造船所再考—地元出身者の就業に注目して」『開国史研究』16、2016.3、6-26頁
鈴木淳、「世界遺産のその先 富岡製糸場と絹産業遺産群」『日本歴史』824、2017.1、88-94頁
鈴木淳、「近代史を語るうえでの史跡の役割」『月間文化財』644号、2017.5、4-7頁
鈴木淳、「産業技術史の観点から」独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター近代文化遺産室『未来につなぐ人類の技⑩ 近代文化遺産の保存理念と修復理念』独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、2017.3、47-54頁
鈴木淳、「賢問愚問解説コーナー 器械製糸と座繰製糸の生産量について」、『歴史と地理』、712 日本史の研究 260、23-26頁、2018.3

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、史学会、理事、2016.10~2017.12

国内、日本産業技術史学会、理事、2009.5～2017.12、副会長 2017.5～2017.12

国内、政治経済学・経済史学会、編集委員、2009.1～2017.12、理事 2017.10～

(2) 行政

省庁、文化庁、文化審議会専門委員、2014.3～2017.12